

第11回文書館カレッジ・常陸大宮市史講演会連携企画

そうだ、市史、つくろう。

没後600年 佐竹一族に生まれた高僧 — 三日月上人了誉聖岡 —

「ろくやさん」として知られる了誉聖岡（りょうよしろうげい）上人は暦応4年（1341）、佐竹氏の一族白石志摩守宗義の子として上岩瀬に生まれました。幼くして父を亡くした聖岡は、太田法然寺の蓮勝上人や瓜連常福寺の了実上人のもとで浄土宗義を学び、さらに広く仏教の奥義についての研鑽を積み、数々の著作を残すとともに、浄土宗教団を独立した組織として確立しました。額にあった三日月形から光を放ち、その明かりで昼夜を問わず勉学に励んだ、という逸話から「三日月上人」の名でも知られています。

聖岡が重視したのは、浄土宗義を正しく伝授することで、この「五重相伝」の教えをもとに弟子の育成に努めました。師了実から受け継いだ瓜連常福寺を三世了智へ譲ると、応永27年（1420）小石川寿経寺（のちの伝通院）で生涯を閉じました。

聖岡上人の没後600年にあたり、市内に残るゆかりの史跡と、浄土宗中興の祖としての業績を紹介します。

期日 令和元年 12月1日(日) 入場無料

会場 常陸大宮市文化センターロゼホール大ホール
(常陸大宮市中富町 3135-6)



- 12:30 開 場
13:00 開 式
13:10 報告1 二十六夜尊聖岡上人と誕生寺
永徳 眞隆氏（誕生寺住職）
13:35 報告2 聖岡出生の秘密
高橋 修氏（茨城大学教授）
14:00 報告3 岩瀬郷の二つの城跡
五十嵐雄大氏（茨城城郭研究会会員）
14:45 講 演 了誉聖岡の学問と思想
鈴木 英之氏（北海学園大学准教授）
16:30 閉 式

問合せ 常陸大宮市文書館(常陸大宮市北塩子1721 TEL 0295(52)0571)

主催：常陸大宮市教育委員会（主管 常陸大宮市文書館、常陸大宮市史編さん委員会）

後援：茨城大学中世史研究会、茨城城郭研究会